

富士見町の家

設計:長坂大/Mega

雨と付き合う

長坂大 | Dai Nagasaka

ひとり住まい

この住宅の住み手はひとり。しばしば知人、友人、親族が訪れるので、1階は皆で使うためのLDKとし、2階は寝室と来客のための宿泊スペースとなっている。旗竿敷地の“竿”の幅が広いので、そこに水まわりと物干場を兼ねたバスコートを設けて、“旗”部分の庭が広がるように工夫した。ザイフリボクを楽しむ緑灰色の石とスギ板仕上げの浴室には、「グラスティN浴槽」の陰りのない白色がよく合っている。

“雨”はどこから“排水”になるのか?

“雨”と“排水”、同じ水でありながら2つの言葉の差は大きい。建築や都市において、雨をただ迅速に処理するのではなく、もっと親しみが持てるような水の流れとして設計することはできないかと考えていた。

この住宅の屋根に降った雨は、ガルバリウム鋼板の91の谷の流れ、91の雨だれとなって砕石敷きの地表面に落ちる。庭の植栽を潤し、地下に潜り、それでも浸透しきれなかった水が集水枡を経て排水管に向かう。

雨を受け止める屋根は、この住宅のファサードにもなっている。前面道路に向かって幅が狭まり、コートで一段小さくなり、最後に平葺

きになって垂れ下がり、極小の樋となって終わるのだが、手前を低く抑えているので、道行く人々からこれら全体が見えるようになっている。

外壁は屋根同様、素材になるべく手を加えない材料を選択した。サイディングの製造過程で生じるさまざまな“ゆらぎ”を表情の豊かさとして扱っている。

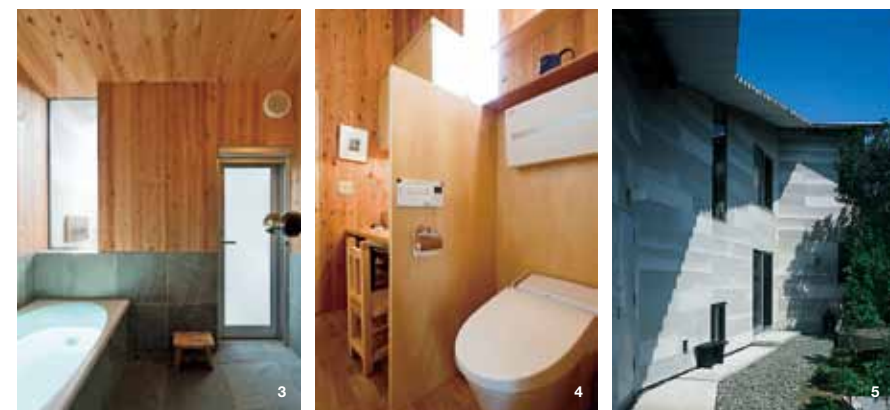
シミやムラの美しさ

サイディング材の製造工程で現れるシミやムラは、通常は意匠的欠陥となってしまいうため素板のまま使用されることはない。しかし、板取りや施工方法を工夫することで、それらはむしろ美しさになると判断した。具体的なシミやムラとは、①濃淡の色違いとその境界に発生する縞模様、②しずくによる斑点模様、③表面のあばた。これらは、いずれも性能上の問題はない。②と③はそのまま採用できると判断し、①についてはひとつの板に濃淡が混在する場合、常に濃い部分が上になるように成形して、外壁としての濃淡のリズムに一定の秩序を持たせた。製品の働き幅は303mmと小さめに設定し、働き長さを2種類にして馬張りとするので、ひとつの立面に適度な模様のバラツキが起きるように工夫した。端部の面取りをなくして小口を見せたことで、開口部の表情はシャープになり、素材の特徴を活かした表現になったと思う。



ながさか・だい——建築家/1960年生まれ。1982年、京都工芸繊維大学住環境学科卒業。1985-89年、アトリエ・ファイ建築研究所。1990年、Mega設立。1989-2002年、京都工芸繊維大学造形工学科助手。2003-07年、奈良女子大学人間環境学科准教授。現在、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授。工学博士。
主な作品:おざわ歯科[2008]、宇治のアトリエ[2008]、淡路島の家[2009]など。

1——西面全景 | 2——リビング・ダイニング | 3——浴室 | 4——1階トイレ | 5——南面外観



1階平面図 1/300

2階平面図 1/300

A-A'断面図 1/300

建築概要
 名称:富士見町の家 | 所在地:神奈川県平塚市 | 家族構成:1人 | 敷地面積:170.83㎡ | 建築面積:57.10㎡ | 延床面積:87.02㎡ | 規模:地上2階 | 構造:木造 | 工期:2009.8-2010.1 | 設計:長坂大/Mega | 施工:大同工業湘南本店
 ●INAX使用商品 | 浴室 | 浴槽:グラスティN浴槽 ABN-1300/W91 || 1階トイレ | 便器:サティス D-S424P/BW1 || 2階トイレ | 便器:サティス D-S424S/BW1